ふるさと歴史発見

第四十八回 船迫窯跡の鴟尾（しび）

今年三月、奈良県興福寺中金堂の再建工事で二基の鴟尾が上棟されました。高さ約二㍍、重さ約一トンだそうです。鴟尾は古代寺院や宮殿建築の大棟両端に載せられた装飾瓦です。もとは大棟に板状の熨斗瓦（のしがわら）を重ね、その両端を反り上げ高くした形状に由来し、沓状（ブーツの形）に変化しました。

中国では南北朝時代（西暦四三九～五八九）に宮殿や寺院の屋根を飾るようになり、日本には朝鮮半島の百済を経由して入ってきたといわれます。

ところで、築上町の国史跡船迫窯跡でも平成七年に鴟尾（写真）が出土しています。写真①は胴部のちょうど中心から右側面にかけての残存部分で、下部には唐草文様が、その上を左右方向に四葉蓮華文を型押しした文様帯が巡ります。そしてその上部には羽状文が立体的に描かれます。写真②は鴟尾の左側面基部にあたり、縦帯から鰭部にかけての残存部分で、縦帯には①と同様に四葉蓮華文が巡り、やや丸みを持たせた鰭を挟んで先端に鋸歯状に切り込まれた鰭が並びます。



▲鴟尾胴部（写真①）
全形の復元高さは130㎝程度



▲鴟尾基部（写真②）

四葉蓮華文は朝鮮半島の百済最終末期（西暦六六〇年頃）に流行した文様であり、七世紀後半の所産と考えられます。なお、②と同様の基部小片が上坂廃寺（現みやこ町）でも見つかっており、同寺の金堂等の大棟を装飾するために船迫で製作し、供給された可能性が考えられます。

当時の木造建築にとって火災を招く落雷や建物倒壊に繋がる大風は建物災害を招く一番の要因でした。鴟尾は船迫の出土例に見るように羽毛と鰭を持つことからそれらを自在に操る風神である鳳凰を表現したともいわれます。

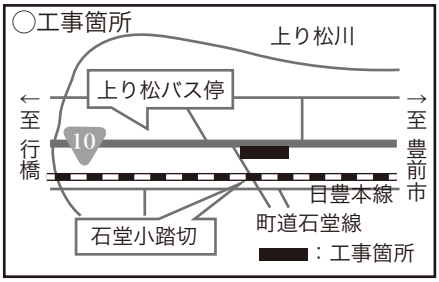
町では百済系蓮華文を型押しする、九州では出土例のない大変貴重な鴟尾の全形を復元したレプリカを作成するため、現在作業を進めています。

（文化財保護係　馬場克幸）

10 石堂地区の歩道が広くなりました

４月から進めていました石堂地区の歩道拡幅工事が、６月末をもって完成しました。

当該箇所は西角田小学校の通学路となっており児童などの安全安心の確保を目的として工事を進めてまいりました。みなさまにはご迷惑をおかけしました。ご協力ありがとうございました。



○工事前写真



○完成写真



問い合わせ　国土交通省　九州地方整備局　北九州国道事務所　行橋維持出張所　（２２）１１２９

NPO 法人しいだコミュニティ倶楽部からのお知らせ

27年度 しいコミタ涼みグランドゴルフ大会参加者募集！

日　時　９月５日（土）
１７：３０受付　１８：００開会式
場　所　サンスポーツランド浜の宮グラウンド
対　象　築上町民
参加費　会員５００円／会員外８００円
競技方法　１６ホール（２コース合計打数）個人戦
＊競技者前送りで、得点をつける
定　員　９６名
締　切　８月２１日（金）※定員になり次第締切

今後のイベント日程のお知らせ

１０月　１日（木）	ピンポン大会
１０月１７日（土）	スポーツまつり 体力テスト・ニュースポーツ
１０月２３日（金） ２４日（土）	グランドゴルフ温泉バスツアー 荒木グランドホテル
１０月３１日（土）	京築地区総合型交流Ｇ大会

NPO法人しいだコミュニティ倶楽部事務局　Tel（５６）００７５